

# 手越川の生き物と水環境

## 1 手越川の概要

手越川は、緑区境松付近を源として扇川に合流する、延長約3.0kmの河川です。合流点から約2.0kmは二級河川として指定されており、残り約1.0kmは普通河川として管理しております。

川の沿川には旧東海道が通っており、現在も国の伝統工芸品である有松絞の染色工場などが立地しています。流域のうち、大高緑地は開発が規制されていますが、それ以外の地域では宅地化が進んでいます。

手越橋付近



扇川合流点付近



## 2 手越川の生き物

手越川では、2023年度に調査を行った結果、計12種の魚類が見つかりました。

ミナミメダカやカマキリなどのたくさんの貴重な生き物が確認されています。

ブルーギルなどの特定外来生物も確認されており、生態系への影響が懸念されます。



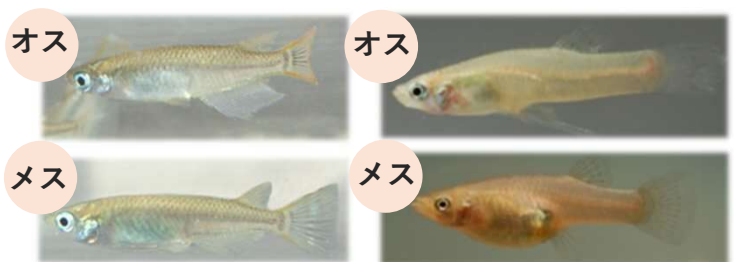
★ウツセミカジカ

★カマキリ



★スミウキゴリ

ゴクラクハゼ



オス

オス

メス

メス

★ミナミメダカ

▲カダヤシ



ドジョウ類

▲ブルーギル

### 手越川で見つかった魚種

★ナマズ,★ミナミメダカ,★カマキリ,  
★ウツセミカジカ,★スミウキゴリ,  
★ウキゴリ,  
コイ,オイカワ,ドジョウ類,ゴクラクハゼ,  
▲カダヤシ,▲ブルーギル

★：名古屋市の絶滅危惧種

▲：特定外来生物

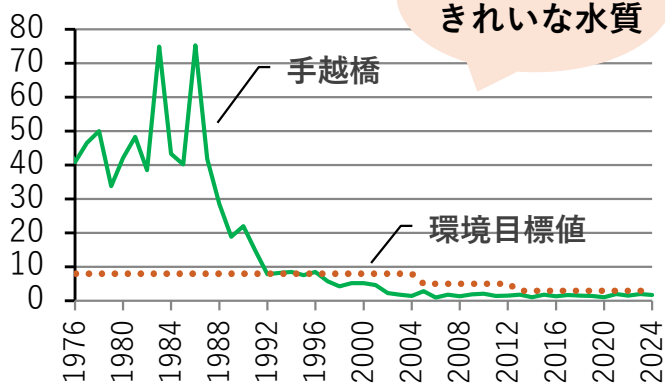
### 3 手越川の水質

手越川では、流域にある染色工場からの排水や、市街化の進展に伴って増えた家庭からの生活雑排水が直接川に流入していました。その影響により、1980年代前半までは水質が悪化し、川の水が藍色や紫色に変色することもありました。その後、下水道の整備や普及が進んだことで、生活排水や事業排水が処理されたうえで川へ流れ込むようになり、水質は改善してきています。

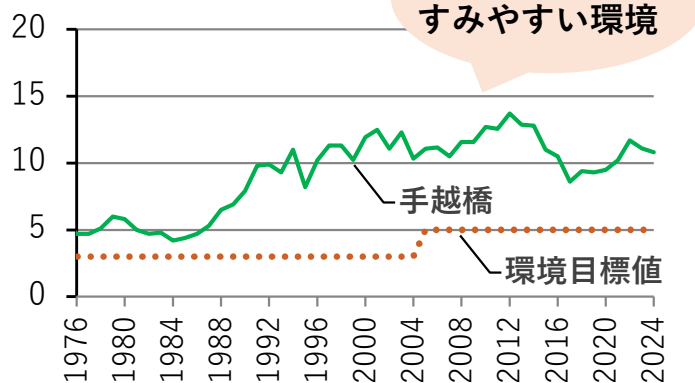
近年では、BODやDOはいずれも環境目標値を達成しています。ただし、DOについては自然の状態よりも高くなる傾向がみられるため、昼間に植物プランクトンや水草・藻類が光合成を行い、水中の酸素量が増加している可能性が考えられます。

#### ◆ 水質 (BOD,DO) の経年変化

##### BOD 75%値 (mg/L)



##### DO 平均値 (mg/L)



環境目標値：(1974年～)8mg/L以下, (2005年～)5mg/L以下  
(2014年～)3mg/L

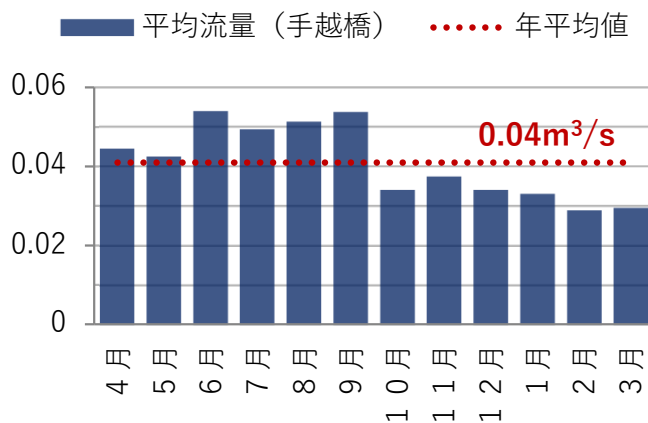
環境目標値：(1974年～)3mg/L以上, (2005年～)5mg/L以上

### 4 手越川の流量

手越川流域の生活排水などの汚水は、下水道の整備・普及に伴い、現在では鳴海水処理センターで処理され、天白川へ放流されるようになりました。その結果、手越川の主な水源は雨水のみとなっています。

晴天時に水深が約10cmまで低下することがあり、水深・水量ともに十分ではありません。そのため、晴天時の流量の確保が課題となっています。

#### ◆ 月別平均流量 (m<sup>3</sup>/s)



(2015年度～2024年度)